

2024年8月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 8月えんだより

8月の聖句「人にしてもらいたいと思うことは何でも、

あなたがたも人にしなさい。」

マタイによる福音書7章12節

梅雨明けと共に、夏本番の厳しい暑さが続いています。1945年8月6日、この日の広島は快晴。暑い夏の日が始まった午前8時15分、広島市上空約600メートルで原子爆弾がさく裂し、一瞬にして10万人以上の人びとの命が奪われました。続いて8月9日には長崎で。そして、8月15日に多くの人の命や家屋、生活を奪った戦争がようやく終わりました。今年の夏は、昨年以上の厳しい暑さが長引く予想となっていますが、自然に逆らうのではなく、上手く生活面などの工夫をしながら乗り越えていければと思います。そして、あの夏から続く「平和」の重みをかみしめつつ過ごしたいと思います。

こどもたちがゲームに夢中になっているときに「もうゲームはおしまい。早くお風呂に入りなさい！」という、「今入ろうと思ってたのに...」「御飯食べられなくなるからおやつはおしまい！」「ご飯なんかいらない！おやつがいい！！」どの家庭でもこのような親子のやり取りがあるのではないのでしょうか。そして、「どうしてダメっていうことするの！」と。

人間は、大人もこどもも「ダメ」と禁止されると禁止されたことをやりたくなくなってしまうそうです。それは、自分の行動を禁止されたことで「自由を奪われた。」と感じることで大きなフラストレーションが芽生え、このフラストレーションを解消するために禁止された行動をする生き物だそうです。この現象を「心理的リアクタンス」というそうです。これは、60年余り前の1966年、アメリカの心理学者ジャック・ブレームが提唱した心理学理論で、人間は、自分が自由に選択できていることに対して制限や強制をされると、抵抗や反発感情が生じる現象だそうです。人は生まれながらにして、自分の行動や選択は自分自身で決めたいという欲求を持っており、この欲求を制限されると反発を感じたり自分の意見に固執したりすると。そして、制限や強制が「お風呂に入る。」や「ご飯を食べる」といった自分も予定していた行動と同じであっても「心理的リアクタンス」（反発）は発動してしまうそうです。相手が大人でもこどもでも、この「心理的リアクタンス」が発動しないような言葉がけを心掛けたいものですね。

イエス様は、「人が嫌がること、望まないことをしてはいけない。」ではなく、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」と仰いました。イエス様は私たちの「禁止」ではなく、多くの「勧め」の御言葉を残してくださいました。そして、その多くは「愛」の行いです。けれどもこの「愛」が失われた所では「憎悪」と「争い」が...。私たちの力は小さなものですが、イエス様が私たちの欲望を見抜かれたうえで「勧め」てくださった「愛」の行いを少しでも多くの人びとと広め、「憎悪」や「争い」のない「平和」を実現できることを祈りたいと思います。

8月	乳児（0,1,2歳児）	幼児（3,4,5歳児）
月主題	ゆったりと	平和を祈る
月の願い	*神様や周りの人たちに愛されていることを全身で感じる。 *家族や保育者、友達とゆったりと過ごし、心を満たす。 *夏の自然を五感で感じる。	*異年齢や少人数の関わりの中でゆったりと過ごす。 *ゆったりとした時間の中で、自分のやりたいことに取り組む。互いの思いを聴き合って過ごす。 *身近なことから平和を考え、祈り、世界にも目を向けていく。
讃美歌	「 どんどこどんどこ 」 こども改106	「 きょうだいげんかを 」 こども改15